

平成28年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>【本校】 （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学力向上」に重点的に取り組み、春と秋に公開授業旬間を設置し、研究授業を行い、相互に評価しあう機会とした。また、教科（英語）として指導主事を招へいし、教科指導の在り方等について研修を深めた。 ○「土曜講座」「学習合宿」等の進路指導について改善を進めたことにより、生徒の満足度が高まりつつある。長期休業を利用し、教科指導力の向上を目的とした外部機関での研修に多くの教員が参加した。また、大学や先進校の視察についても意欲的に取り組んだ。 ○他校種間連携を積極的に実施し、生徒の学習ボランティアや教員の小中学校への出前授業、部活動単位の交流等を充実させることができた。 ○総務企画部が中心となり、府立高校特色化事業等の企画・運営を行うことで、地域活性化に係る生徒の意欲を向上させることができた。また、報道機関への情報提供、保護者メールの配信、中学校への広報紙の配布等、情報発信や生徒募集に大きな成果があった。今年度は、綾部市立中学校の1年生を対象として、高校の学びの体験と進路学習を目的とした「学び体験 in 綾高」を3回実施することができた。 ○施設設備関係では、L L教室の充実を図り、英語力の向上に向けた取組の準備を進めた。また、A棟の耐震工事が完了し、より安全な環境を提供できるようになった。 ○部活動について、運動部は、男子ソフトボール部・カヌー部・陸上競技部が全国高等学校総合体育大会に出場した。特に男子ソフトボール部は春の全国高等学校選抜大会にも連続で出場した。 ○同窓会、PTAの協力を得て、生徒のキャリア形成に向けた取組を成功させることができた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路保障、特に進学面において、更に地域社会の期待に応えられるよう指導の充実にも努めなければならない。 ○部活動におけるトラブルにより当該専門部に多大な迷惑をかけるとともに生徒・保護者、地域社会からの信頼を損ねることになった。部活動の指導の在り方について、各顧問の意識を一層向上させることが必要である。 ○グローバルな視野と豊かな人間性の涵養を目的として、国際交流を取り入れるよう取り組んだが、多くの機会を持つことができなかった。 ○生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車及び自転車乗車時のマナー向上等、更なるシィズンシップ教育の継続的な取組が必要である。特に、自転車使用時の交通事故が増加しており、交通安全指導の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学び」を実現する学習環境づくり ・系統的・組織的な進路指導体制の確立 ・豊かな人権感覚や国際感覚、シィズンシップの育成 ・健康安全教育の推進と部活動の充実 ・地域社会の活性化に貢献できる教育活動

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
1 組織・運営	教職員の連携を強化し、組織的な学校運営に努める。	部長会議を基軸とした運営と各分掌間・各教科間の連携をさらに強化する。	B	◆各分掌間・各教科間の連携については、各種会議の機能を有効に活用し、より一層連携強化を図る必要がある。 ◆小・中学校との連携については学校公開や説明会をはじめ学習ボランティアを通じて連携を図ることができた。
		小・中学校や地域社会と連携した開かれた学校づくりに努める。	B	
2 総務企画部	綾高の魅力を深め、それを広めていく。	生徒および教職員の活動を通して、綾高の魅力を校内外に広報する。	B	◆昨年度に劣らぬ広報活動を継続して展開できた。京都フロンティア校の事業は予算減となったが、予定の事業を実施できた。
		京都フロンティア校（地域創生推進校）の事業を推進する。	B	
3 教務部	生徒の基礎学力と学ぶ意欲の向上	生徒の学習状況の実態調査・授業アンケートを活用し、指導と評価について研修を行う。	B	◆授業アンケートをマークシート方式から記述式に変更したことで、具体的な意見をひろいあげることができた。しかし、抽出して実施したため、割り当てにおいて教員間で差が出た。◆「まなトレ」を実施して一定の成果をあげたが、内容や期間について課題が残った。
		1年生まなび週間による「まなトレ」の有効活用をはかる。	B	
4 生徒指導部	基本的な生活習慣を確立する	挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。	B	◆身だしなみ向上週間を設けて、全職員で身だしなみの向上を呼びかけた。◆遅刻指導を丁寧に実施した。◆携帯電話の規定を強化したが、一向に不正使用が減少しなかった。◆一部の女子が、頭髪・身だしなみの指導になかなかのらない実情があった。
		常に身だしなみを整えるように、職員全体で指導を徹底する。	B	
		遅刻をなくすため、スタンプラリーと入室許可証のシステムを実施し、学校（担任）と家庭が連携して指導する。	B	
5 進路指導部	地域社会の期待に応えるべく、系統的な進路指導体制の一層の強化を図る。	個々の生徒の課題や必要な手立てについて検討を重ねる。	B	◆第3学年部との連携を図ることができたが、第1・2学年部との連携は不十分であった。◆1年次からの早期指導、有効的な手立ての必要性を感じた。◆3年間を見通した系統的な進路HRの充実が望まれる。とりわけ、1年次のHRの充実を図る必要がある。
		学年部との連携を一層密にし、担任と進路指導部による部会を複数回実施し、共通した指導を行う。	B	
		本校HPに進路指導の様々な取組の様子を順次掲載する。	A	
6 保健部	命と身体を大切にすることを育てる。	ルール・マナーを守り、見通しをもった行動で危険を回避し、安全に生活できるように指導する。	B	◆インフルエンザの流行期に無理をして登校する生徒も多く、危機管理、自己管理能力の向上が課題だと考えられる。◆スクールカウンセラーの利用状況が昨年度より増えたことにより、生徒だけでなく教員も生徒理解が深められ、個別指導も行きやすかった。
		保健だより等を活用し、さまざまな健康課題について考えさせる。	A	
		性教育・生活習慣病に関する教育を行い、正しい知識をもたせる。	B	
7 第1学年部	基本的な生活習慣を確立させ、遅刻や欠課をしないようにさせる。	5分前行動など、定められた時間で行動できる指導を徹底する。	B	◆基本的な生活習慣の確立については、おおむね良好だったものの、一部の生徒に遅刻が多かったり化粧をしてきたりと徹底できなかった。日常的な声掛けが不足していた所が反省点である。
		挨拶や掃除、身だしなみなどの指導を徹底する。	B	
		教員間の情報交換を密に行い、家庭や関係分掌との連携を図る。	B	

分掌 教科	項目 (重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題
8 第2学年部	確かな学力を身につけ、進路意識を強く持たせる	毎日の継続的な家庭学習の習慣を身につけさせ、進路実現に向けた取り組みをすすめる。	B	◆進路指導部と連携を行い、クラスごとの進路検討会を実施することができた。◆進路意識の啓発を行うことにより、多くの生徒が各種資格検定試験を受験した。◆教科担当者との連携をとり、授業規律の徹底を図ったが、規律を守れていない授業も見受けられたので、次年度において指導を継続した。
		教科担当者と綿密な連携を図り、学力の向上を図る。	B	
		実用英語技能検定や漢字能力検定などの資格検定試験を積極的に受験させる。	A	
9 第3学年部	希望進路の実現	進路実現に向けての自主探究を促し、また担任が面談等を通して確かな指導を行う。	A	◆進路状況を校内データサーバー上で共有し、把握するとともに、進路指導部との連携を密にし、個々に応じた進路指導を行うことができた。 ◆学校祭準備期間は毎日、代表ミーティングを行い、継続した指導ができた一方で、挨拶や女子の化粧など細かい部分の指導は不徹底であった。
		進路指導部との連携を密に行い、すべての進路活動進捗状況の把握に努める。	A	
		担任間で積極的に情報交換を行い、進路指導力の向上に努める。	A	
10 事務部	窓口業務及び電話対応における信頼される学校	保護者や来客者等に親切・迅速・丁寧な窓口業務を行う。	B	◆生徒の学習環境整備として、エアコン設置、防球ネット改修及び備品の充実等強化することができた。また、修繕箇所への速やかな対応を心がけ、安心・安全対策にも成果を得た。 ◆地域住民や保護者の立場や思いをくんで、親切・迅速・丁寧な窓口対応及び電話対応に新たな課題が生じた。
		電話対応において、迅速な取次ぎ、丁寧及び的確な説明を行う。	C	
		来客者に来客者名簿を記入していただき、来客者の行動を把握して不審者対策を図る。	B	
11 国語科	基礎力の上に立った、運用能力、実践力の育成	生徒の個に応じた学びを大切に、確かな基礎学力の上に、演習、A L など多様な方策を用いて、運用能力、実践力を身に付けさせる。	B	◆小テストを実施し、課題を適宜与えることで、生徒の基礎学力を伸ばそうと努めた。基礎学力の伸長という点で、学力の上中位層に一定の成果は見られるが、古典文法、漢文句法の定着、実践力の育成という点で課題を残した。主体的な学習に、全員の生徒を向かわせる必要がある。
12 地歴公民科	基礎学力の定着をはかり、希望進路の実現に努める。	各クラスの状況に応じて基礎基本を重視した授業を展開し、学力の向上を図る。	B	◆授業中に課題テストを実施したり、プリントの内容や活用法を工夫するなどして、基礎学力の定着に努めた。 ◆科目によっては、グループ学習を取り入れ、プレゼンテーション活動を取り入れた授業展開を行った。 ◆各科目とも視聴覚教材を有効に活用した。
		定期的の小テストを実施し課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。	C	
		時事問題や地元の身近な題材を取り上げ、生徒が興味関心を示す授業となるよう努める。	B	
13 数学科	学力の向上のため家庭学習の習慣の確立	授業規律を確保する。	B	◆希望進路の実現のため、適宜教材を与えた。 ◆学力向上には努めているが、ICTの利用には至らなかった。
		定期的な演習課題、小テストなどを行う。	B	
		日常生活の中に隠れている数学的なものを紹介しながら、数学に興味関心を抱かせる。	B	
14 理科	新コース制に応じた指導の完成	新しいコース設定に伴う新教育課程に応じた効果的な指導を行う。	A	◆新しい教育課程での指導が3年間完成する年度で、新課程に応じた指導を完結させることができた。◆同一科目を複数の教員で担当することで、互いの指導方法や評価について交流を深めることができ、指導力の向上につながった。小テストや基礎演習を充実させ、生物の野外実習や化学・物理の実験をより充実させることができた。
		年間計画に基づき、生徒の知識が定着し、理解が深まるような授業展開に努める。	A	
		授業規律を確立し、学習環境の向上に取り組む。	B	
15 保健体育科	健康・安全への関心を高め、日常生活の中で実践できる力を育む。	自ら課題を見つけ、探究する能力及び行動力を育てる。	B	◆保健の授業等を通して、健康の保持増進の意識を高めることができた。◆各授業において、生徒の活動する意欲を高めるために学習内容を工夫することができた。◆グループ活動中心の授業を通して、リーダー性や社会性をある程度は育成できた。
		健康の保持増進への知識や理解を深め、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	B	
16 英語科	英語を積極的に理解し、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	教科書等の英文を覚える活動を一定取り入れ、使える英語を増やす。	B	◆特に1年では、ペア・ミーティングの授業で英語で表現する力をつけるために年3回英語で発表をさせた。◆全体的には英文の理解把握に重心が傾くことは避けられないが、短時間でも英語を使わせる工夫が要るであろう。
		生徒に英文を作り使わせる機会を増やす工夫をし、生徒のコミュニケーション能力を伸ばす。	B	
		特に1学年では、パフォーマンス課題に積極的に取り組み、英語を用いて自己表現ができるようにする。	A	
17 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる。	授業規律を大切にす。	B	◆生徒の技能差を把握しながら個々の能力に応じた実技指導を行うことができた。 ◆授業を通して生徒の興味関心が高まっている。 ◆授業の成果を学校内外で発表できた。今後も多様な鑑賞活動を行う。
		授業時間を有効に活用し、完成度を高めるための姿勢を身につけさせる。	B	
		技能差のある生徒が取り組める課題を取り入れ、個々の能力の掌握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。	A	
18 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す	実生活の中から課題を見つけ出し、学んだことが生かせる授業を展開する。	A	◆調理実習した献立を家庭で作ってみたい、家庭で引き継がれている家庭料理をまとめたり、ニュースで取り上げられた話題を授業で扱うなど、ある程度実生活と結びつける授業展開はできた。 ◆新しい視聴覚教材を取り入れることができた。
		生活に役立つ実習を取り入れ、体験的に学ばせる。	B	
19 情報科	情報モラル意識の育成	個人情報の使われ方を通して、自己の個人情報について学ぶ。	A	◆知的財産については、時間の関係から歴史的背景についてはあまり触れることができず、現状とTPPとの関係に触れるだけとなった。
		知的財産権(著作権・特許権など)の歴史を通して、その重要性を理解させる。	C	
		情報発信時の個人情報に関する注意点を理解させる。	A	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校のホームページはできるだけ更新をし、綾部高校の特徴である「学習と部活動の両立」の様子がよくわかるような日頃の生徒たちの写真を多く掲載したホームページづくりをしていただきたい。 ◆高校生ぐらいの年頃になると家庭で親子の会話が少なくなるので、保護者が学校のホームページを見て、子どもと学校の様子等について話し合えるような仕掛けづくりをしてもらえるとうれしい。 ◆授業内容を教えるだけでなく、勉強の仕方を教えることができれば、生徒たちの学力はかなり伸びると思う。効率よく学習する方法を教えてあげて欲しい。 ◆時間を大切にす意識を持たせ、遅刻をなくすという項目では、成果で遅刻がかなり少なくなったとあるが、遅刻がなくなるレベルまでにして欲しい。時間の大切さを生徒にしっかり学校で教えて欲しい。 ◆様々な講話等を聞いてメモをとる習慣を高校でつけさせて欲しい。
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習と部活動の両立に向けて学校全体で組織的に取り組まなければならない事項について、職員会議等で再確認し、教職員全体で取り組めるよう働きかけたが、教育活動アンケートでも学力向上に向けた取組や進路指導面での不十分な点について指摘いただいているので、その点については、学力向上を最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組み、より一層、綾部高校としての特色ある教育活動を展開する必要がある。 ◆部活動や校外学習での怪我とインフルエンザによる欠席者が例年より多かつたため、次年度以降、健康安全教育の校内体制づくりにも反映させていく必要がある。 ◆自転車乗車時のマナーや保護者の送迎による自動車の駐停車について、地域の方々に御迷惑をかけていることから、PTAと連携した継続的な取組が必要である。また、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。
-----------------------	--